

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称	自然体験実習 [Field Training]			実務経験教員担当	○	アクティブ ラーニング	
科目コード	710067	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	伊志嶺 朝紀			学位授与の方針との関連	DP3 (4)		
授業概要	<p>本授業は、専門課程である環境園芸に携わる学生に、自然体験活動を通して、「人と人」、「人と自然が共生した社会」の必要性について学びます。主な内容として、協調性を高めるコミュニケーションプログラム、五感を使った自然体験型プログラム、野外活動の体験とスキル、環境教育プログラムなどを実施いたします。これらの学習内容を通して人間力を習得します。また、今後、益々社会的に取り組みされる国際目標である「SDGs=持続可能な開発目標」もグローバルな視点として意識する。自然に親しむ、自然を保護する、あらゆる活動においても、相手がいて友好的コミュニケーションが築けてこそ、自然に対する関わりが有意義なものとなるでしょう。自然界に生きている限り、あらゆる場面で自ら考え、行動できる人材となることに重きをおいています。【課題発見・解決、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、社会的責任、自己管理力】【実務経験】一般社団法人アイ・オー・イー勤務（設立1986年）25年勤務 自然体験教育、環境教育を中心に子どもから成人まで体験活動の企画、運営、指導を行っております。九州各地を活動地として、主催のキャンプにて体験活動を行っております。また、農水省などが推進する地域づくり事業に自然体験活動を活かした地域活性化にも取り組んでおります。</p>						
関連する科目							
授業の進め方と方法	<p>自然体験活動実習における指導手法は、「アクティブラーニング」のラーニングピラミッドに対応した学習指導法で行います。以下のような手順で進めます。・講師の講義による内容の理解。・テキストによる基礎的理解。・見て・聞いて・触れて体験をとおした理解。・体験した内容を個人で考察する。・個人からグループへ共有する。・グループワークによるデモンストレーション発表へ向けた内容の構築をする。・デモンストレーションは、他者への理解を深めるための技術を磨く。・デモンストレーション後のふりかえりは、個人、グループ、他者からの意見を共有し個人の理解も深める。デモンストレーションの構築におけるグループワークは、以下の「PDCAサイクル」により主体性を持って取り組めるように進みます。【PDCAサイクル】矢印はPDCA→PDCAと繰り返される。更には継続することでスパイラルアップ（改善しながら改良・向上する）となる。→Plan：計画（目標を達成するまでの計画作成）→Do：実行（計画を実行する。評価・分析（Check）できるように活動内容を記録し、内容や課題を解決する）→Check：評価（計画どおりに進んでいるか、目標の達成を評価する。また結果の達成、未達成を客観的に見て他者の評価なども交える。→Action：改善（評価を見ながら、良かった点は継続的、悪かった点はどのように改善するべきかを考える。この計画を続けるか、修正するか、中止するかも考慮し、改善すべき点を次のPlanに落とし込み、PDCAサイクルへつなげていきます。）</p>						
授業計画	<p>第1回 アイスブレイキング法による雰囲気づくり 第2回 自然体験活動の理念 第3回 人と人、人と自然の関係性について 第4回 自然への導入～自然体験プログラムの実際～（手法：ネイチャーゲーム） 第5回 自然体験活動を実施について（資質） 第6回 協調性と信頼関係の必要性（手法：イニシアティブゲーム） 第7回 人と自然環境保全の関係性（手法：プロジェクト・ワイルド） 第8回 安全管理と安全指導、危険予知トレーニング（手法：KYT） 第8回 安全管理に関わる指導者の意識 第9回 野外での自然体験活動～野外調理実習（着火、刃物の取扱い、安全管理） 第10回 野外での自然体験活動～野外調理実習（衛生管理、設営、危機管理） 第11回 野外での自然体験活動～フィールド実践（リパートレッキングによる実体験） 第12回 野外での自然体験活動～野営の基礎（テント設営、管理） 第13回 野外での自然体験活動～体験プログラム企画立案（グループワーク） 第14回 野外での自然体験活動～体験プログラム企画実施（グループワーク） 第15回 ふりかえりとまとめの重要性（気づきの共有） ※天候、フィールド環境などによる実施日の入替調整などがあります。</p>						
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と自然との関わり方の大切さを理解する。</li> <li>・体験型プログラムを通じ、自然体験活動の必要性を実感する。</li> <li>・自然体験の基礎知識（指導法、安全教育）を習得する。</li> <li>・野外技術の実践とおして技術を習得する。</li> <li>・環境教育プログラムを通して、社会的責任の必要性和理解する。</li> <li>・上記項目を通じ、コミュニケーションスキルや協調性を身につける。</li> </ul>						
授業時間外の学修	<p>【予習】・野外演習の物品や服装の準備は、安全管理面などからも重要であり、その必要性を理解、確認し備える。（30分程度） 【復習】・日々の配布資料等の復習をふりかえり、疑問点などあれば翌日に質疑をし、理解を得ること。（30分程度） ・グループワークでの課題取り組みにおいては、実習期間をとおして継続することが多いので、グループ内の協調性を持ち、日々備えること。（30分程度）</p>						
課題に対するフィードバック	配布資料は、ファイリングをし、講師内容を項目、時系列でふりかえられるように綴じる。レポートは、各自ふりかえりと習得した技術の活かし方をテーマに記述する。コピーをとり、評価の一部とし、原本は、本人に返却し、いつでもふりかえられるようする。	評価方法・基準		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践による技術習得（70点）</li> <li>・自己評価（感想文）（30点）</li> </ul>			
テキスト	参考資料による引用と自主作成による配布資料。						
参考書	<p>「自然体験活動指導者 安全管理ハンドブック」¥1,000+税 著：特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会 「プロジェクト・ワイルド-水辺編-」（非売品）著：一般財団法人 公園緑地管理財団/ https://www.projectwild.jp/learn/index/ 「身近な自然から気づく きっかけプログラム集」（非売品）著：社団法人日本環境教育フォーラム/WEB日本財団 図書館</p>						
備考							